



会議を始めており、長期未収金の回収問題も、この検討会議の中で方向が定まると考えている。チューリップ(区の花)のまちづくりについて

【問】区の花を桜としている区は、足立区を含め7区もある。一方、チューリップを区の花としているのは、23区の中で足立区だけである。

しかし、区の花と言っても、チューリップの観賞場所はごく一部しかなく、株数も少ない。区の施設だけでなく、区民・町会・自治会・商店街・NPO・企業等の協力をいただき、区全体でチューリップのまちづくりを推進すべきと思つが、どうか。

【答】「あしたの足立をつくる区民協議会」の事業として、春と秋に「花いっぱいコンクール」を実施している。

現在、町会・自治会・小中学校やNPO等57団体が参加している。今後、商店街、企業等、幅広い団体に取り組んでいただき、チューリップの普及を図れる様に「花いっぱいコンクール」事業の充実と周知を図っていく。

【問】我が党は、子育てミニデイスーパーを要望したが、更に子育てホームサポートと同様に6時から22時まで利用できるワゴンコイン託児所事業を早急に立ち上げることを要望するが、どうか。

【答】子育て支援では、訪問型ばかりでなく、施設での一時保育についても高い要望がある。子どもが不安にならない様な配慮も必要であり、実施においては「子育てサロン」への併設など工夫が必要と認識している。実施について検討していく。

【問】区民・NPO・町会・自治会・小中学校・行政等の参加により、清流化運動である「ジャブジャブ大作戦」が成果をあげている。この清流化運動に対し、より一層意欲を持ってもらうためにも、八潮市該当地域の下水道工事着工を早急に八潮市に求めるべきだが、どうか。

【答】区では関係する東京都、埼玉県、八潮市と、仮称・圀川浄化対策協議会」を設置するため打合せを開始した。この協議会において、八潮市該当地域の早期下水道整備を要望していく。綾瀬川人道橋の建設について

【問】神明南・北加平に住む区民にとって六町駅を利用できるかどうかは、綾瀬川にかかる橋の有無で大きく違う。境田排水場の敷地と綾瀬川をまたぎ、対岸の高速高架下またはグリーンベルトを利用して人道橋の建設を六町駅開業にあわせ希望するが、どうか。

【答】人道橋の建設は河川条件道路との交差等を考慮すると延長約100mの斜路部が必要となる。境田排水場の早期撤去は難しく架橋の実現は困難である。補助258号線の都市計画事業による架橋計画を推進していく。

平成15年度各会計決算 決算特別委員会での審査と本会議の議決

決算特別委員会を設置

今定例会に、区長より平成15年度「一般会計」「国民健康保険特別会計」「介護保険特別会計」「老人保健医療特別会計」「用地特別会計」の5会計の歳入歳出決算の認定について、議案が提出されました。

議会は、5会計歳入歳出決算の議案を審査するため、9月24日の本会議において決算特別委員会を設置しました。

本特別委員会では、審査に先立ち委員長に渡辺ひであき議員、副委員長に杉崎征司議員、ぬかが和子議員を選任し、審査日程及び委員会運営等について協議を行い、10月4日から13日までの延べ6日間の審査にはいりま



決算の概要

区では、区財政の立て直しを図るため、「足立区の構造改革戦略」を策定し、「区政」「財政」「社会」の3つの構造改革を進

めてきました。こうした中で、平成15年度予算は編成されました。

平成15年度の予算は、「財政の構造改革」の取り組みのひとつである、「包括予算制度」を本格導入し編成されたもので、本予算を「くらしと産業の明日を拓く予算」と銘打ち、「子ども施策」「高齢社会施策」「都市型産業・雇用施策」の3つを重点項目とし、執行されました。

その結果、一般会計歳入は、2千249億1千468万円、歳出は、2千199億9千73万円となり、歳入歳出ともに、再び前年度より増加しました。普通会計決算では、実質収支は53億円の黒字と、前年度に比べ19億円の増となり、経常収支比率は、81.5%と前年度に比べ34ポイント改善しました。

しかし、これは都区財政調整交付金の増加によるもので、自主財源である区税収入は6年連続の減収となり、特別区民税は300億円を割り込んでいます。これは区財政が、都区財政調整交付金への依存度が高まっていることを示しており、今後とも財政体質の強化と健全化に取り組むことが求められています。

今後、構造改革をより一層進め、財政基盤の強化をはじめとする区の構造的課題を解決するため、具体的かつ効果的な行財政運営が求められています。

主な質疑

今回の委員会では、厳しい財政状況のもと、歳入の確保や、歳出の見直しのため、区がどのような努力をしているのかということについて、多くの委員から質疑が行われました。

歳入に関しては、収入未済や不納欠損に対する対策、区民の担税力向上のための方策など、歳入の確保に対する区の取組状況に関して、質疑がありました。

歳出に関しては、生活保護費などの扶助費について、人件費などの削減状況に関して質疑がありました。

また、教育行政に関しては、学力向上対策、教員の指導力向上対策、自然教室の意義などの教育改革について、福祉施策では、少子化問題や子どもの医療費助成の拡大、保育園待機児の解消など子育て支援策に質疑が集中しました。更に、今夏の猛暑により、区内で42度以上の高温を記録したことが取り上げられ、校庭の芝生化、普通教室の暑さ対策など学校環境の改善対策や屋上緑化などヒートアイランド現象の緩和対策について質疑が多く行われました。

防災関連では、本年は多くの台風の上陸や震度4以上の地震が発生していることから、防災に関する広報の方法、避難訓練非常時の区の体制・対応などの質疑が行われました。

その他では、包括予算制度の評価、区内業者育成のための指名競争入札制度のあり方について、指定管理者制度について、区有財産の活用について、商店街の振興対策について、若年層の雇用問題について、創業支援策について、障害者の支援費制度の取り組みについて、特別養護老人ホームや障害者入所施設について、ホームレス対策について、乳がん検診や前立腺がん検診の方法について、交通安全対策について、五反野駅前周辺整備について、上総湊健康学園について、図書館行政についてなどの質疑がありました。

各委員からは、区政全般について幅広く、かつ活発に質疑が行われました。

10月13日、各議案に対する全ての質疑が終わり、各党派より平成15年度決算に対する討論がなされた後、採決を行いました。

その結果、本特別委員会では、平成15年度一般会計歳入歳出決算については、挙手多数により

審査結果

10月22日の本会議において渡辺ひであき委員長より審査報告がなされた後に採決を行い、その結果、本特別委員会の審査結果のとおり認定する議決をしました。



本会議での議決結果

10月22日の本会議において渡辺ひであき委員長より審査報告がなされた後に採決を行い、その結果、本特別委員会の審査結果のとおり認定する議決をしました。

決算特別委員会委員

委員長 副委員長

渡辺 ひであき	委員	明 石 幸子	委員
杉 崎 征 司	委員	うすい 浩 一	委員
ぬかが 和 子	委員	きじま てるい	委員
市 川 伯 登	委員	金 沢 美 矢子	委員
馬 場 信 男	委員	芦 川 武 雄	委員
高 山 延 之	委員	三 好 すみお	委員
吉 岡 茂	委員	さとう 純 子	委員
鴨 下 稔	委員	橋 本 ミチ子	委員
新 井 ひでお	委員	大 島 芳 江	委員
中 島 勇	委員	渡 辺 修 次	委員
白 石 正 輝	委員	米 山 やすし	委員
鈴 木 上 隆	委員	秋 山 ひでとし	委員

(25名)